

但馬水産技術センターだより



漁況情報 (G1818号)

平成30年11月2日

兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

平成30年漁期ズワイガニ漁況の見通しについて

調査船「たじま」の調査結果などから見た今期のズワイガニ漁況の見通しについて報告します。

1. 今漁期の見通し

- ①解禁直後(但馬沖漁場): 解禁直後の但馬沖漁場での漁獲量は、オスがに(硬がに)は前年をやや上回り、メスがに(クロコ)は前年を下回ると見られます。メスがにの漁場は水深 235~240m を中心に形成されるでしょう。オスがにでは甲幅 12cm 以上の大型個体が比較的多いでしょう。
- ②漁期全般(浜田沖~丹後沖漁場): 本県底びき網漁船が漁期全般を通じて利用する浜田沖~丹後沖漁場全体におけるズワイガニ資源量は、総計では前年並み、オスがに(硬がに)は前年をやや上回ると推定されています。

2. 根拠となった情報

① 解禁直後(但馬沖漁場)

調査船「たじま」によるトロール漁期前調査(調査月:10月)

調査船「たじま」により、平成30年10月10~17日に、香住沖の水深200~350mおよび津居山・浜坂沖の水深235~245mに設けた計14定点(図1)でトロール網による試験操業(袖先間隔27m、3ノット、30分曳き)を実施しました。

- ・オスがに(硬がに): St. K200を除く全ての調査点で入網がありました(表1、図2)。解禁直後に利用されるメスがに漁場水深帯(235~250m)での1曳網当たり入網数は4.7尾で、前年(3.2尾)を上回り、過去5年平均と同じでしたが(表2)、全水深帯(200~350m)では1曳網当たり2.3尾で、前年(3.2尾)および過去5年平均(3.0尾)を下回りました(表2、図3)。サイズは甲幅12cm以上の大型サイズが主体でした(図4)。
- ・メスがに(クロコ): 津居山沖、香住沖では水深235m、浜坂沖では水深240mを中心に入網しました(表1、図2)。メスがに漁場水深帯での1曳網当たり入網数は25.8尾で、前年(37.7尾)および過去5年平均(57.9尾)を大きく下回りました(表2、図3)。

② 漁期全般(浜田沖~丹後沖漁場)

日本海区水産研究所調査(調査月:5~6月)

水産研究・教育機構 日本海区水産研究所は、A海域(富山県以西)における平成30年漁期当初の資源量について、総計では前年並み、オスがに(硬がに)は前年をやや上回ると推定しています(図5)。

3. その他の情報

- ・翌2019年漁期以降、加入の減少による資源量の急減が予想されています(図5)。持続的な漁獲のため、ミズがに、メスがにの獲り控えに努めて下さい。
 - ・11月は再放流後の生残率が低いため、ミズがに・若齢がにが多数入網する水深帯(今回の調査点では200m付近と300m付近)では、できるだけ操業回数を減らすよう心掛けて下さい。
 - ・アカガレイの1曳網当たり入網重量は前年および過去5年平均を大きく下回っています。(表1、2)
 - ・エチゼンクラゲは入網が認められませんでした。オオサルバの入網はごくわずかでした。
- 以上、操業の参考にして下さい。

お問い合わせ先: 兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター (担当: 大谷)

TEL: 0796-36-0395 FAX: 0796-36-3684

E-mail: nourinc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ: <http://hyogo-suigi.jp/tajima/>

資料①
解禁直後
(但馬沖)

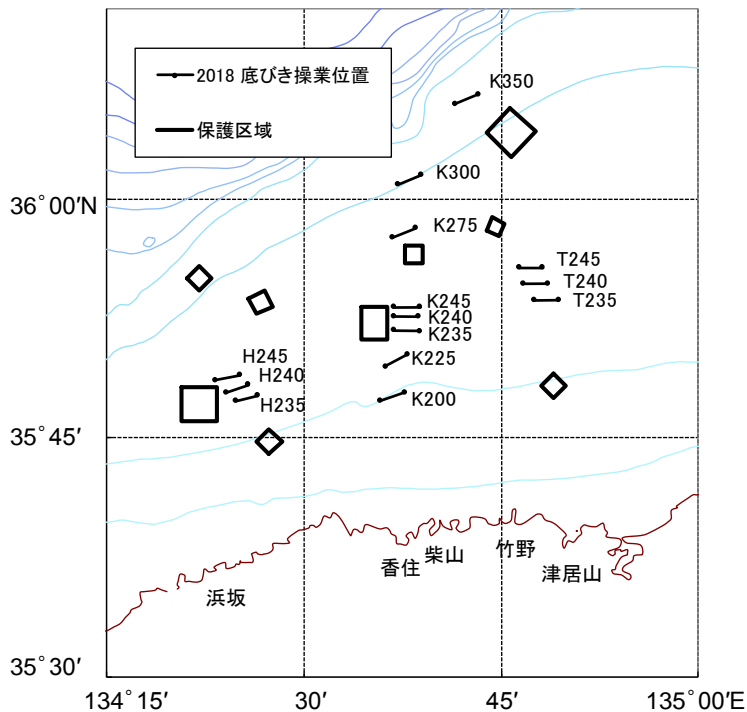


図1 但馬沖調査海域図

表1 操業点別のズワイガニ等入網状況

漁場	年月日	操業点	曳網水深 (m)	ズワイガニ 入網数 (匹/網)			アカガレイ 入網重量 (kg/網)	エゼンクラゲ [*] 入網量 (kg/網)
				オス ^{*1}	ミス ^{*2}	メス ^{*3}		
津居山・ 竹野沖	2018/10/10	T245	245	3	2	1	1.1	0
	"	T240	240	2	2	3	0.8	0
	"	T235	235	2	0	44	0.8	0
香住沖	2018/10/16	K350	343→336	2	12	0	7.4	0
	"	K300	303→302	1	38	0	7.5	0
	"	K275	277	5	0	1	19.3	0
	2018/10/15	K245	249→243	5	2	0	0.2	0
	"	K240	246→239	3	1	3	1.3	0
	"	K235	239→231	3	4	7	3.3	0
浜坂沖	2018/10/17	H245	245→248	19	1	4	0.8	0
	"	H240	240	4	0	166	9.2	0
	"	H235	235	1	1	4	6.8	0

表2 曳網当たり入網匹数の前年および過去5年平均との比較

水深帯	調査年	ズワイガニ 入網数 (匹/網)			アカガレイ 入網重量 (kg/網)	エゼンクラゲ [*] 入網重量 (kg/網)
		オス ^{*1}	ミス ^{*2}	メス ^{*3}		
メスがに漁場水深帯 (235-250m平均 ^{*5})	過去5年平均	4.7	1.5	57.9	7.3	16.6
	2017年	3.2	0.8	37.7	4.4	0.0
	2018年	4.7	1.4	25.8	2.7	0.0
全水深帯 (200-350m平均)	過去5年平均	3.0	19.9	10.1	15.6	11.2
	2017年	3.2	8.3	6.3	9.9	0.0
	2018年	2.3	18.1	4.5	8.1	0.0

*1 硬がに(甲幅9cm以上・硬甲・ハサミ大) *2 11齢(二皮)と硬がに以外の12・13齢
*3 漁期中にクロコになる個体 *4 漁網監視装置より *5 メスが集中分布. 解禁直後の主漁場となる.

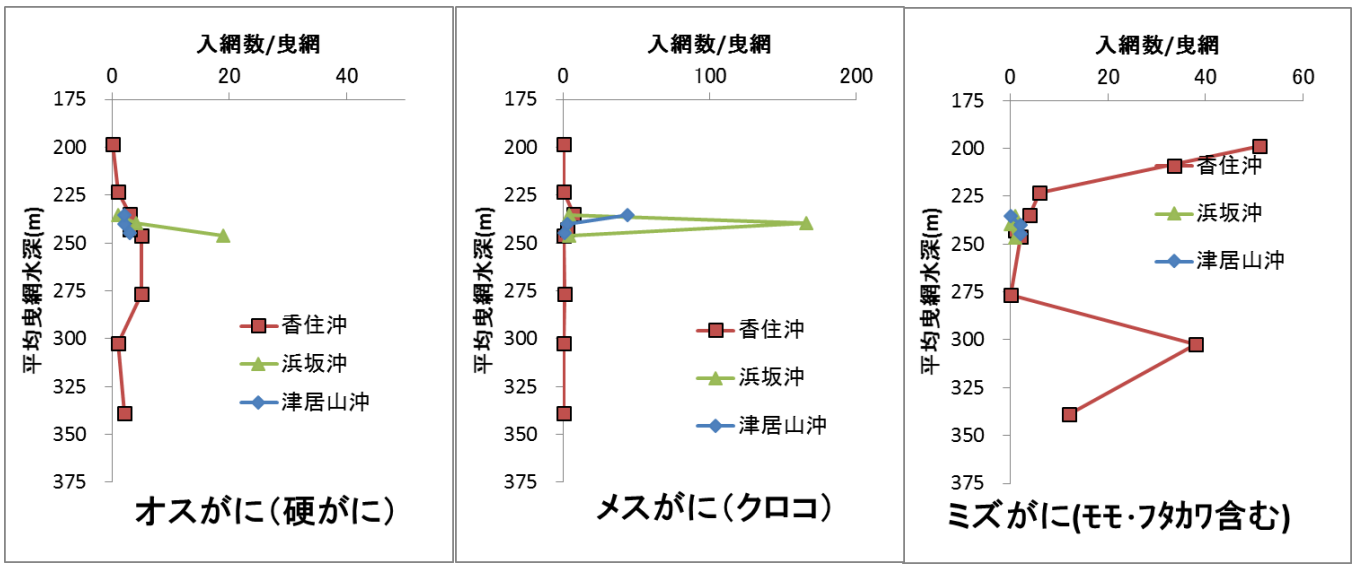


図2 曳網水深と入網尾数(但馬沖)

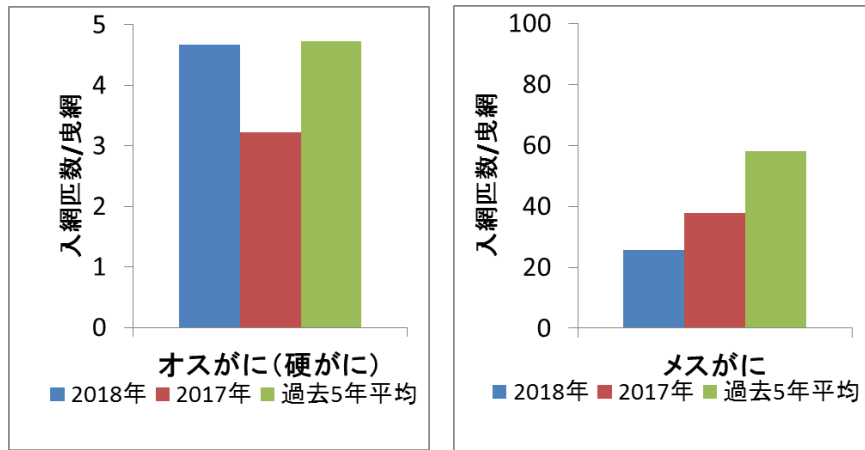


図3 平均入網匹数の過去との比較
(但馬沖:235-250m平均)

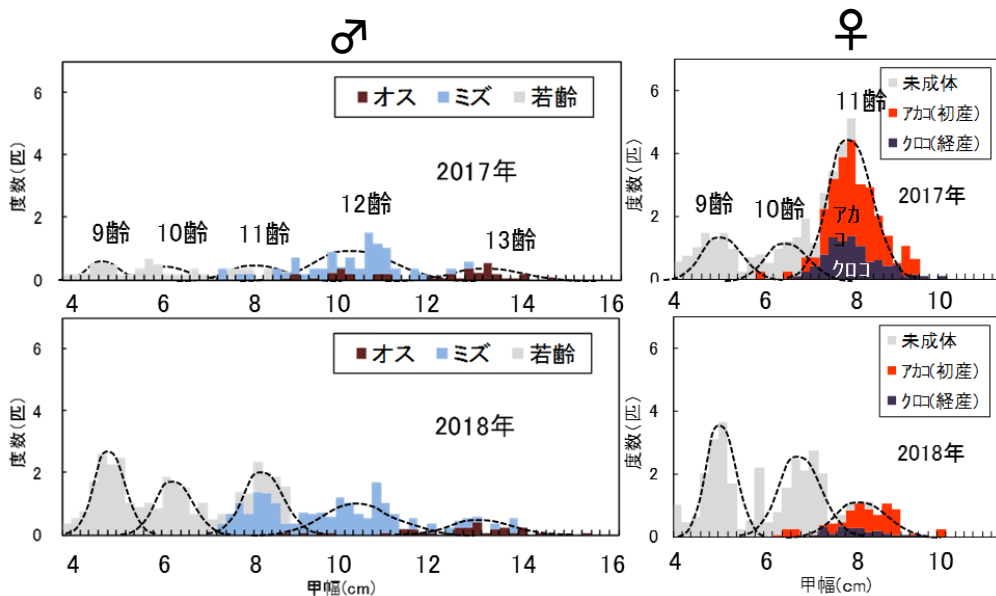


図4 トロール網によるズワイガニ甲幅組成(平成29・30年)
(10月、但馬沖水深200-350m、1曳網当たり)

資料②
 漁期全般
 (日本海西部海域)

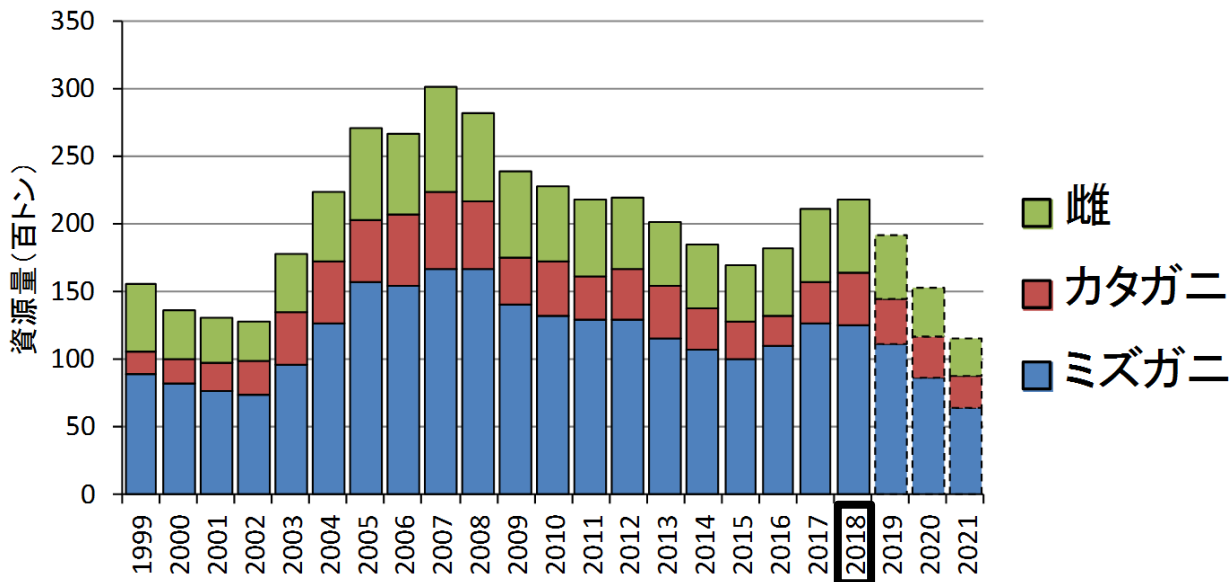


図5 日本海西部海域における推定資源量
 (漁期時点)